

第 62 回 酒田の人物史料展



明治の青春群像【明治30年代中頃・鶴岡にて写す・解説裏面】

開催期間 平成2年10月31日(水)～平成3年3月3日(日)
開館時間 午前9時～午後4時30分
休館日 毎週月曜日(当日祝祭日はその翌日)
12月29日～1月3日
入場料 大人100円・児童生徒50円
身体障害者と65歳以上無料

酒田市立資料館

〒998 山形県酒田市一番町8-16
TEL (0234) 24-6544

●開催にあたって

人はみな歴史的・社会的存在者としての業績をもち、ひとしく尊敬されなければならない。

ここに登場する人物は郷土や地域の発展につとめ、地域社会の各分野で、その発展向上に尽くした人々を中心とし、更に人類や国家・社会のために大きな役割を果たした郷土出身者のその人となりや業績の一端を順次展示・紹介します。

心広く、謙虚にこれらの先人の遺徳に学び、来たるべき二十一世紀をひらく活力の源泉を探りあてていただきたいものです。

酒田の人物資料展

【本年度】

- ① 明治の青春群像(1880年代生まれの人々)
- ② 郷土史を彩る人々(明治以前)

【次年度】

- ③ 社会の近代化に尽くした人々(明治・大正期)
- ④ 昭和期に活躍した人々

§ 1 . 明治の青春群像〔10月31日～12月27日〕

「歴史は人間によってつくられ、人間は歴史によって育てられる。」といわれます。発展途上国としての日本の1880年代に生を享け、日清・日露の両戦役の間に青春時代を過ごした郷土の若き群像たちが、いかに歴史的な存在者として、人間の主体的な役割を担って行動したか、それぞれの業績を通して、具体的に展示・紹介します。



●久村 清太(1880～1951)
帝人会長・人絹の発明者



●齋藤巳之吉(1881～1965)
第2代酒田市長



●大平 得三(1882~1962)
医学博士・禁酒論者



●甲崎 環(1882~1970)
郷土史家



●丹波 恒夫(1883~1971)
実業家・浮世絵収集家



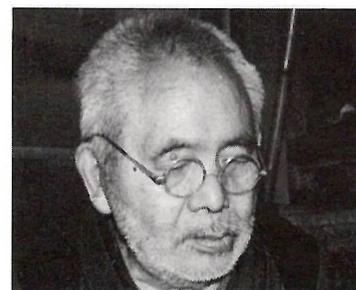
●久松 宗六(1883~1971)
「酒田新聞」主筆



●富樫 雄太(1884~1956)
稲の品種改良に尽力す



●池田亀三郎(1884~1977)
石油化学工業の第1人者



●齋藤 兼吉(1884~1970)
如齋・木工細工の名人



●伊藤吉之助(1885~1961)
日本哲学学会の大御所



●小倉金之助(1885~1962)
世界的な数学者



●青塚 恒治(1885~1958)
地方自治功労者



●齋藤 辰(1885~1971)
教育者・裁縫女学校の創設



●小山安之助(1885~1986)
漆師の名人



●大川 周明(1886~1957)
植民地開放の理論的指導者



●莊司修理之助(1887~1942)
田園詩人「田家百絶」著者



●小島小一郎(1888~1960)
農民解放運動家

●表紙写真——

荘内中学校の酒田出身者記念撮影。この中に久松宗六（4列右から3）青塚恒治（4列右から6）大平得三（2列左から5）池田亀三郎（3列右から2）小倉金之助（3列右から6）伊藤吉之助（1列左から2）等が顔を揃えている。『目でみる酒田市史』から

★資料展関係略年表

一一八九	文治 五	平泉滅亡	徳尼公没す
一二二七	健保 五		
一三三七	延元 二		池田秀盛が朝日山城を築く 武藤澄氏が東禅寺城を築く
一四七八	文明一〇		宮野浦から現酒田に移転始まる 三十六人衆本町に町作りをする
一四九二	明応 元		志村光安、東禅寺城代となる
一五二一	大永 元		
一六〇一	慶長 六	最上義光、亀ヶ崎城と改名する	
一六〇三	慶長 八		
一六二二	元和 八	酒井忠勝、庄内を拝領す	
一六七三	寛文一二	河村瑞賢、西廻り航路を整備する	
一六八九	元禄 二		本間家初代原光新濁屋と名乗る この頃黒森村芝居始まる
一七三五	享保二〇		本間光丘植林に着手する
一七五八	宝暦 八		この頃酒田俳諧の全盛時代
一八〇二	享和 二		天保一揆（転封阻止事件）
一八四〇	天保一一		
一八五三	嘉永 六	ペリー来航	イギリス船飛島に入港する
一八六〇	万延 元		
一八六八	明治 元	明治維新	戊辰戦争・長崎丸事件 三烈士断首 ワッパ一揆
一八六九	明治 二		
一八七四	明治 七	酒田県廃止・鶴岡県を置く	酒田に町制施行
一八七五	明治 八	山形県となる	酒田大震災起こる
一八七六	明治 九	西南の役	
一八七七	明治一〇		
一八八九	明治二二	大日本帝国憲法公布	
一八九四	明治二七	日清戦争起こる	
一九〇四	明治三七	日露戦争起こる	
一九一一	明治四四	条約改正	① 明治の青春群像
一九一三	大正 二		
一九一四	大正 三	第一次世界大戦に参加	義挙団を結成
一九一五	大正 四	対華二十一カ条要求提出	新庄・酒田間鉄道開通する 鶴岡・酒田間鉄道開通する
一九一九	大正 八		
一九三一	昭和 八	満州事変起こる	飽海郡耕地整理事業終わる 城輪柵跡、国の史跡指定となる 酒田市に市制施行
一九三二	昭和 七	五・一五事件	
一九三三	昭和 八	二・二六事件	
一九三六	昭和一一		鉄興社大浜工場設立 花王石鹼酒田工場設立
一九三七	昭和一二	日中戦争始まる	
一九四〇	昭和一五	対米英宣戦布告	
一九四一	昭和一六		酒田、空襲を受ける
一九四五	昭和二〇	無条件降伏	
一九四七	昭和二二	日本国憲法施行	
一九五一	昭和二六	対日平和条約調印	酒田港重要港湾指定 近隣十か村合併
一九五四	昭和二九		

④昭和期に活躍した人々

③社会の近代化に尽した人々

②郷土史を彩る人々